

主な検査項目の説明・意義

※ここに掲載されていない場合にも増減することがあり、病的でないものも含め、様々な原因が考えられます。必ず担当医に説明してもらうようにして下さい。

生化学検査	AST (アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)	肝臓や筋肉・血液などに多く含まれ、これらの細胞が壊死や破壊されたときに上昇し、肝障害などで高くなります。
	ALT (アラニンアミノトランスフェラーゼ)	主として肝臓に多く含まれている酵素で、特に肝細胞の障害を鋭敏に反映します。
	LDH (乳酸デヒドロゲナーゼ)	幅広く体内の細胞に存在し、組織障害の程度をみる検査です。特に肝臓や血球に多く含まれています。
	γ-GT (γ-グルタミルトランスフェラーゼ)	肝臓や胆道に障害があると高くなり、アルコールや薬物の肝障害でも高くなります。
	ALP (アルカリホスファターゼ)	主に肝臓・胆道や骨の疾患などで高くなり、小児は成人より高い値を示します。
	CK (クレアチンキナーゼ)	骨格筋に多く含まれ、心筋、平滑筋、脳などにも含まれる酵素です。心筋梗塞や筋肉の疾患や障害などで上昇します。
	TP (総蛋白)	血液を放置したときの上澄みの部分に含まれるタンパクの総量を表しています。肝臓、腎臓の機能や栄養状態をみています。
	Alb (アルブミン)	血液中のアルブミンは、特に栄養状態、肝臓の障害や腎臓の機能で低下します。
	TC (総コレステロール)	身体の脂肪成分の一つであり、ホルモンの異常で上昇する人や体質的に高くなりやすい人がいます。高くなりすぎると動脈硬化症などの生活習慣病の原因となります。
	HDL-C (HDL-コレステロール)	一般的には善玉コレステロールといわれ動脈硬化を防ぎます。
	LDL-C (LDL-コレステロール)	一般的には悪玉コレステロールといわれ動脈硬化を進行させます。
	TG (中性脂肪)	身体の脂肪成分の一つであり、食習慣により上昇する人や体質的に高くなりやすい人がいます。数値が高くなりすぎると動脈硬化を進行させます。
	BUN (尿素窒素)	蛋白質の分解産物です。腎臓に排出されるので、腎臓の機能が低下すると高値になります。
	Cr (クレアチニン)	筋肉中から代謝、放出され、腎臓で排出されます。腎臓の機能が低下すると高値になります。
	UA (尿酸)	ヒトの体や食事に由来する老廃物の1つで、腎臓から排泄されるため、痛風や腎臓の機能低下などで上昇します。また体質的に高くなりやすい人もいます。
	Na (ナトリウム)	体内の細胞の働きに関わり、重要な役割を果たしています。脱水や腎臓の障害、ホルモンの異常などで上昇、または低下などと変動します。
	K (カリウム)	
	Cl (クロール)	
	CRP (C反応性蛋白)	炎症や組織破壊が起こると血中に増加する蛋白質です。
	血糖	血液中のブドウ糖の濃度であり、糖尿病の重要な指標の一つです。食事の影響を受けるので検査時には注意して下さい。
HbA1c (ヘモグロビン A1c)	ヘモグロビンは赤血球に含まれるタンパク質で、HbA1cは血中のブドウ糖と結合したヘモグロビンです。血中に浮遊している期間に曝されたブドウ糖濃度(血糖値)に比例して増減するため、過去の平均的な血糖の状態が分かります。	
血液検査	WBC (白血球数)	異物の侵入に対抗して体を守る働きをしています。また白血球には数種類があり、主として好中球とリンパ球があり、単球、好酸球、好塩基球も含まれます。炎症やアレルギーなど、その他に血液疾患に関連して増減します。
	RBC (赤血球数)	赤血球は肺で取り入れた酸素を全身に運び、不要となった二酸化炭素を回収して肺へ運び出す働きをしています。これらの働きは主として赤血球中のヘモグロビンが行っています。またヘマトクリットは血液中に占める赤血球の割合(%)を示しています。これらが減少すれば貧血となります。
	Hb (ヘモグロビン)	
	Ht (ヘマトクリット)	
	PLT (血小板数)	出血したとき、その部分に粘着して出血を止める働きをしています。血小板の数が減少または機能低下すると出血しても止まりにくくなります。
尿検査	尿糖	血糖値が高くなると尿中に糖が出現します。また健常人でも一時的に(+)になることがあります。
	尿蛋白	腎機能の障害で尿中に蛋白が出現します。また健常人でも一時的に(+)になることがあります。

尿潜血

尿の中に血液が混じっている状態を血尿といい、肉眼で確認出来ない状態でも尿に血液が混じっている場合があります。これを潜血と呼び、一般的に腎臓から尿道までの出血をしているかどうかの検査となります。